

書名	<b>興福寺と運慶 美と伝統を愉しむ</b>		著者名	西山 厚／著			
出版社	宝島社	ISBN	978-4-299-07060-9	本体価格	¥1,700	発売	2025/9/1
内容	日本美術史における至宝の宝庫・興福寺。阿修羅像をはじめとする仏像はもちろん、五重塔、中金堂などの壮麗な建築物など、数多くの国宝を所蔵しており、美術館でもあるといえる。 本書は、平安・鎌倉時代の仏師として有名な運慶、その兄弟弟子である快慶ら「慶派」と呼ばれる奈良仏師たちによる仏像と選りすぐりの宝物を貴重な写真で紹介しながら、日本史における興福寺1300年以上の歴史を学ぶ一冊。						

書名	<b>梧桐に眠る</b>		著者名	澤田 瞳子／著			
出版社	潮出版社	ISBN	978-4-267-02473-3	本体価格	¥2,000	発売	2025/9/5
内容	時は天平の世(奈良時代)、天然痘が大流行した平城京を舞台に、戸籍のない浮浪児たちと、異国の地(中国の唐)からやってきた袁晋卿が会う。 それぞれに生きづらさを抱える彼らの人間模様、深まる新羅と日本の対立、唐から帰国した知識人たちの苦悩を描く。 月刊「潮」の連載小説が待望の単行本化。						

書名	<b>極楽浄土の起源</b>		著者名	杉山 二郎／著			
出版社	法藏館	ISBN	978-4-8318-2709-8	本体価格	¥1,300	発売	2025/9/12
内容	イランの西部に位置するササン朝ペルシア時代(三～七世紀)の遺跡、ターク・イ・ブスターン洞。「楽園のアーチ」と呼ばれるこの遺跡には、岩山、湧水をたたえる池、楊木やその他の緑蔭地があり、池に臨んだ断崖には、神と王の三尊式の像や飛天像、生命の樹、鹿・猪の狩猟の様子が浮彫で表されている。西アジアにある楽園泉地の遺跡を図像学、比較文明論の視点から考究して、地獄・極楽のイメージを探る。						

書名	<b>奈良万葉</b>		著者名	写真:井上 博道 翻訳:ピーター・J・マクミラン			
出版社	パイ インターナショナル	ISBN	978-4-7562-5910-3	本体価格	¥2,500	発売	2025/9/12
内容	井上博道さんは、奈良に息づく『万葉集』ゆかりの風景を撮影してきました。やがてそのまなざしは、奈良を越え、他の土地で詠まれた歌の美しさにも惹かれるようになっていきました。本書には、そうした奈良県外で撮影された作品も4点収録しています。						

書名	<b>キャラ絵で学ぶ！ 仏教図鑑</b>			著者名	監修:山折哲雄 イラスト:いとうみつる		
出版社	すばる舎	ISBN	978-4-7991-1342-4	本体価格	¥1,700	発売	2025/9/20
内容	日本への仏教の伝来や発展の経緯、主要な宗派の紹介、名刹・仏教芸術の紹介などを「深掘り」して解説します！もちろん、いとうみつる先生の可愛い新イラストも満載で、読者に仏教への興味をさらに広げていただき、また実際に名刹などに足を運びたいくなる構成としています。学校で、図書館で、親子で、おじいちゃん・おばあちゃんとお孫さんで、みんなで楽しみながら、ぜひ仏教への理解を深めてください！						

書名	<b>こころをよむ 日本を見つめる巨人 折口信夫</b>			著者名	上野 誠／著		
出版社	NHK出版	ISBN	978-4-14-911213-8	本体価格	¥900	発売	2025/9/25
内容	「日本人が日本人自らの足もとを見つめる学問」を貫いた折口信夫。歌人・釋迢空としても、万葉集の口語訳でも知られる人間・折口の魅力と業績を、その系譜にある講師が丁寧かつ柔軟に解説する。						

書名	<b>酒どころを旅する</b>			著者名	山内 聖子／著		
出版社	イカロス出版	ISBN	978-4-8022-1652-4	本体価格	¥2,000	発売	2025/9/26
内容	本書は「日本酒」をテーマに、文筆家でありきき酒師の山内聖子氏が全国から厳選した約60銘柄をご紹介します。酒蔵見学や試飲の有無、地元飲食店などの情報も掲載しています。 それぞれの日本酒が持つ味わいの魅力に加え、その土地ならではの味覚や周辺の観光情報も掲載、日本酒愛好家にはたまらない一冊です。蔵元の歴史や酒造りへのこだわりを知り、銘酒が育まれた土地を巡ることで、格別な体験ができるはずです。						

書名	<b>住まいの日本史</b>			著者名	川本 重雄／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08485-7	本体価格	¥2,600	発売	2025/9/26
内容	日本の住まいは夏の暑さに合わせ開放的で風通しのよいものになったと言われるが、本当か。縄文の竪穴住居から近世の民家まで、祭礼や儀式、接客など、住まいがもつ社会的な機能とその変遷に着目。古民家の建築デザインの差異から「壁の空間」「柱の空間」という系譜を見出し、壁が少なく、ふすまや障子で部屋を仕切る日本固有の住まいの成立に迫る。						